



津毛利神社

宮司
氏子総代

配布数

参野	60
本郷	45
本郷東	130
芳川	80

にいなめさい
新嘗祭のご案内

皆さまからのご支援をいただきまして、コロナ禍前と同様の例大祭を執り行うことができました。誠にありがとうございました。

さて、11月23日は1945年（昭和23年）に制定された国民の祝日に関する法律で「勤労をたっぴ、生産を祝い、国民たがいに感謝しあう」勤労感謝の日とされましたが、暦が旧暦から新暦に変更された1873年（明治5年）から1947年までは新嘗祭という名称の祝祭日でした。「新嘗」の「新」は「新穀」を意味して、その年に収穫された穀物で特に主食である米（稲）を、「嘗」は「味わう」で食べることを意味しているといわれています。

新嘗祭は国内が乱れた時を除き古来より宮中で行われ、現在も皇居内の田で天皇が田植えから稲の収穫までなさって神々に奉げています。

お米の収穫高はその地域の農業力を示し、金銭に匹敵する経済力を持っていた時代では先人たちは新田の開発に励みました。

農耕民族であった歴史があり米を主食としている日本人にとっては新嘗祭は重要なお祭りで、全国各地の神社で執り行われています。当神社においても次の日程で行います。

また、年明けの2月11日には、その年の豊作を願う「祈年祭」を執り行いますので、改めてご案内します。

新嘗祭

日時 令和6年11月23日（祝・土） 10時00分開始
場所 津毛利神社 拝殿
参列者 自治会三役、氏子総代
地域の皆様も参列できます。希望される方は祭事開始10分前までに社務所へ申し出てください。

御手洗神社（水神社）祭

日時 令和6年11月23日（祝・土） 10時40分ごろ開始
場所 御手洗神社（津毛利神社の南西約60mに鎮座する末社）
御祭神 水速女命（みづはのめのみこと。農業に関係する水の女神）
参列者 自治会三役、氏子総代
地域の皆様も参列できます。

お知らせ

- ◇ YouTubeの「津毛利神社チャンネル」で10月12日・13日に行われた例大祭の様子を動画で紹介しています。
祭事、奉納舞、屋台、もちまき など…チャンネル登録をお願いします！
- ◇ 家内安全、厄除開運、無病息災、試験合格、子宝恵受、業務安全などの御祈願を受け付けています。神前での祈禱は祭事日に行いますので、準備の都合上、事前に各町の氏子総代にご相談されるか、祈願を希望される祭事日以前の祭事日に社務所へ申込みしてください。なお、御祈願の祈禱料として金三千円を申し受けいたします。